

△ミグシス錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 ロメリジン塩酸塩 Lomerizine Hydrochloride 【分類】 片頭痛治療剤 [Ca拮抗薬]

【単位】 △5mg/錠

【常用量】 10mg/日 [最大 20mg]

【用法】 1日2回

症状が経過すれば一旦中止する

【透析患者への投与方法】 設定されていないが、肝代謝型薬物であり減量の必要はないと思われる (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 設定されていないが、肝代謝型薬物であり減量の必要はないと思われる (5)

【特徴】 ベンジルピペラジン誘導体 Ca²⁺チャネル遮断作用を主作用とする片頭痛基礎治療薬。脳血管に対して選択的な血管収縮抑制作用を示す (1) 片頭痛発作(月に2回以上)により日常生活に支障をきたしている患者に投与。

【副作用】 フルナリジンなどと同様ピペラジン骨格を有し、錐体外路障害、抑うつなどの副作用を惹起する可能性がある。肝障害、眠気、めまい、悪心など

【安全性に関する情報】 QT延長に注意 (1)

【吸収】 ka=0.682/hr (1) 吸収率 80% [ラット] (1)

【F】 5~35% [ラット], 60~74% [イヌ] (1)

【Tmax】 2.5~4.8hr (1) 食事により遅延 (1) 【ka】 0.682/hr (1)

【代謝】 肝代謝されトリメトキシベンジル基のO-脱メチル体及びそのグルクロン酸抱合体、ピペラジン環の4位N-脱アルキル化によるベンズヒドリルピペラジン体が生成する (1) CYP3A4 および 2D6 が関与 (1) M4 (3位のメトキシ基のO-脱メチル体) 及びM6 (ピペラジン環の4位N-脱アルキル化によるベンズヒドリルピペラジン体) の活性は未変化体の約1/2及び1/7 (1) CYP2C19, 2D6, 3A4 など複数の酵素が関与 (1)

【排泄】 約10%が尿中に、約85%が糞中に排泄 [ラット、イヌ] (1) 胆汁中への排泄率約70%、その約80%が消化管から再吸収される [ラット、48hr まで] (1) 尿中排泄率 0.005%未満 [po, 24hr まで] (1)

【t1/2】 単回投与 3.4hr (1) 反復投与 α相 3.0hr、β相 108.3hr (1)

【蛋白結合率】 78% (1)

【Vd】 資料なし (1)

【MW】 541.46

【透析性】 蛋白結合率が比較的高く透析性は低いと思われる (5) 資料なし (1)

【O/W 係数】 7.4 [1-オクタノール/水系, pH7.4] (1)

【更新日】 20231129

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。